

7180 形日立自動分析装置の洗浄剤の検討

(株)兵庫県臨床検査研究所 神戸東支所

○寶田竜弥 米谷智代 西本里菜 竹田政紀 平松聖史 川嶋雅也

【はじめに】

7180 形日立自動分析装置の洗浄剤を純正品外にすることでコスト削減ができることを念頭に置き、洗浄剤を変更できるか検討を行ったので報告する。

【試薬】

検討品(日本メディポート):セルライン・HA-D (以下セルライン A)、セルライン・HG-SS (以下セルライン G)

純正品(日立ハイテック):ハイアルカリ D、ハイタージェント

【方法】

- ① ハイアルカリ D、ハイタージェントと同量のセルライン A 及びセルライン G をペットボトルにいれ、同時攪拌(転倒混和)を実施。その時に泡立ち、泡切れの比較検証を実施した。
- ② 純正品と検討品を同量(1mm 程度)ガラス板等に滴下し、結晶化の差について目視確認を実施した。
- ③ 2 台の 7180 形日立自動分析装置で 1 台は純正品の洗浄剤、1 台は検討品を用いて毎日のコントロールの測定を 1 ヶ月行い、数値を比較した。
- ④ ③と同様に純正品、検討品の洗浄剤を用いた機器で 1 週間毎にブランク値の測定を行い 340nm でのブランク値の上昇の差を比較した。

- ⑤ 検討品を使用し 1 ヶ月後、洗浄剤の流路箇所
- に結晶化、ツマリが発生していないか目視確認を実施した。

【結果】

- ① 純正品と検討品の泡立ち、泡切れに有意な差は見られなかった。
- ② 結晶化にも有意な差は見られなかった。
- ③ 1 ヶ月間の数値は 2 台とも許容範囲内に収まっており、SD 値、CV 値に関しても大きな差は見られなかった。
- ④ ブランク上昇値を比較しても有意な差は見られなかった。
- ⑤ 検討品の流路箇所に結晶化、ツマリの発生は認められなかった。

【考察】

コントロール数値及び、ブランク上昇値に有意な差は認められなかったため、データへの影響及び洗浄力に大きな差は無いと考えられる。

【まとめ】

今回は 1 ヶ月間の短期間での結果である。今後も継続して数値の比較および洗浄剤の流路箇所の結晶化、ツマリの目視確認を実施し、長期的に使用しても問題がないか確認する必要があると考えられる。また純正品ではないため、故障時の補償も課題となる。これらを考慮しつつも、自施設では検討品の洗浄剤使用を目指していく。

《連絡先 T E L 078-806-1560》

※枠線は、抄録集には印刷されません。